

令和6年度 小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会 議事録

日 時	令和6年11月26日（火） 13時00分～15時00分
場 所	小牧市役所本庁舎 6階 601会議室
出 席 者	山下 史守朗 （小牧市長） 【委員】（名簿順） 岩瀬 正明 （株）名鉄ホテルホールディングス 名和 千博 小牧商工会議所 鈴木 義久 東春信用金庫 水野 有香 愛知大学 伊藤 博美 椙山女学園大学【座長】 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会 【地方創生アドバイザー】 西村 健 日本公共利益研究所 安田 数英 ソフトバンク(株) 【事務局】 伊木 利彦 副市長 平岡 健一 副市長 松浦 一将 市長公室 秘書政策課長 上原みよ子 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長 波多野晴菜 市長公室 秘書政策課 市政戦略係 【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員】 笹原 浩史 市長公室長 駒瀬 勝利 市長公室次長 小川 正夫 総務部次長 伊藤加代子 地域活性化営業部次長 落合 健一 市民生活部次長 小川 真治 健康生きがい支え合い推進部次長 山本 格史 福祉部次長 野田 弘 こども未来部次長 堀場 武 建設部次長 舟橋 朋昭 都市政策部次長 三品 克二 上下水道部次長 堀田 幸子 市民病院事務局次長 矢本 博士 教育委員会事務局次長 舟橋 知生 会計管理者 小口 高広 副消防長 丹羽 正幸 消防署長
傍 聴 者	なし
配付資料	次第・委員名簿・配席表 資料1 総合戦略の概要 資料2 第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略指標管理シート 資料3 （仮称）小牧市デジタル田園都市構想の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

	資料 4 事前質問・回答等一覧表
	報告 1 令和 5 年度地方創生臨時交付金の効果検証について
	参考 1 デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023 改訂版）概要
	参考 2 小牧市まちづくり推進計画第 2 次基本計画
	参考 3 第 2 期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略

主な内容

1. 開会

あいさつ

2. 議題

(1) 第 2 期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

事務局より、資料 1 及び 2 に基づき、説明。

○質疑・意見の発言内容

・基本目標 1 持続して発展を続ける産業・経済の確立による雇用の確保・創出

【伊藤座長】

議題の（1）第 2 期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について、まず、基本目標 1 に対して、ご意見・ご発言をお願いいたします。

【鈴木委員】

小牧商工会議所や金融機関の立場で発言させていただきますが、企業誘致に関して、市は非常に頑張っているという評価しております。産業振興のメニューも、他自治体と比べて充実しておりますし、こまき新産業振興センターも良く機能していると思います。

何より先だって、先端技術の難しい案件がありました。これが実現できないと、小牧市を出なくてはならないというような状況でしたが、市で汗をかいていただき、県の承認を得て、当初の計画通り実現できたということがありました。非常に頑張っていると思っています。

ただ、他にも小牧市へ進出したいという企業の声が相当数あるのですが、なかなか良い場所が見つからないということが難点だと思っています。良い場所は、倉庫関連の会社がすでに取得している場合もあり、なかなか難しい状況ですが、総じてこれらの施策を一生懸命に取り組んでいらっしゃると思いますので、継続いただければと思います。

【山下市長】

産業振興や企業誘致については、市としても重要施策の 1 つですので、これまでも力を入れてまいりました。しかし、今ご指摘があったように、企業誘致や設備更新に対応するためには、用地の確保が非常に重要となります。市長就任以来、産業立地戦略会議や色々な会議の場でも、このことを申し上げてきましたが、厳しい状況だということはお指摘のとおりでございます。過去にあったような、市が関わって土地造成から企業団地の開発をして提供するといった、大きな事業はなかなか難しいと考えています。企業側で用地を探して確保していく、そのサポートを市が行うという形しかできていないのが、この 10 年・15 年の状況です。

昨今は土地の値段が非常に上がっていることもあり、特に小牧市においては、コロナ禍以降、物流関連事業が非常に盛んになっていると感じています。倉庫を建てたいというニーズが非常に強く、市内でもすでにいくつもの倉庫が新設されています。現在、市内の土地の確保については、企業間の競争の中で、運輸業が優位な状況で、製造業はなかなか土地を確保できない状況という話も聞きますが、市として何ができるかと考えても、なかなか有効な手立てがなく、非常に

難しいと思っています。市内の開発用地も、土地自体も少なくなっている中で、運輸業の進出がかなり加速したと感じています。何とか製造業の方にも頑張ってもらいたいですし、市としては工場等の製造業の立地を、やはり今後も目指していきたいと考えています。特に先端産業についてはなおさら力を入れていきたいと思っています。以前は先端産業の実績がありましたが、ここ数年は少々縮小していると感じています。

もう1つの課題は、老朽化した工場の建て替えだとか、拡張したいというニーズですね。これもなかなか用地の確保が難しいとご相談いただきます。小牧市外に移転してしまっただけでは非常に困ってしまいますので、何とか流出を抑制するために最大限努力したいと思っています。市としても対策を考えて、後手に回ってはいけなと懸念しています。

・基本目標2 若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備（こども夢・チャレンジ No.1 都市の実現）

【伊藤座長】

ありがとうございます。続いて、基本目標2 若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備（こども夢・チャレンジ No.1 都市の実現）にまいります。

施策1(1)のKPIである「子育てについて相談ができる人がいる保護者の割合」について、外国籍の保護者に相談相手がいないと回答する傾向があるとのことでしたが、乳幼児健診時に通訳がいたり、翻訳アプリを使ったりしてはいるのでしょうか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 小川次長】

乳幼児健診に通訳を置いて対応しています。

また、関連する事前質問に対しては、資料④の質問番号4のとおり回答しております。

【山下市長】

地区担当保健師や外国人相談員がいることを知らず、「相談相手がいなくて」と回答していると考え、今後も積極的に周知を図っていきたく思います。あわせて、地区担当保健師や外国人相談員がいることを知った上で、相談先として頼りにしているのかどうかということを確認していく必要があると思います。

【西村地方創生アドバイザー】

豊田市のNPO法人トルシーダという団体を支援した経験がありますが、外国にルーツのある方とのコネクションをとっておく必要があると思っています。アンケートまでいかなくとも、外国語に対応したアプリなど、色々あると思います。

外国にルーツのある保護者がどういう方たちで、ライフステージが移るに従ってどう暮らして、どこで困っているのか、行政情報として理解する必要があると思います。該当者全員でなくとも、30人ぐらいに聞いて大体の見通しを立てた方が良くと思います。

【水野委員】

日本の生活に不慣れな方たちが、そもそも乳幼児健診を受診できているのかどうかや、アンケート自体が多言語対応しているのかが気になります。そういった部分で抜け落ちてしまう方々がいることが一番問題だと思っています。もちろん出入りがありますので、すべてを受けとめることは難しいですが、色々なチャネルで取組を展開することが大切だと思っています。

先日、静岡県焼津市の、日系のフィリピンの方たちが集住している地域へ行きました。住民の2割ぐらいが外国籍の方という地域でした。その地域では、市が行う日本語教室が遠方なため、

フィリピン人の代表と日本人のボランティアの方々が地域の集会所で、毎週日本語教室を開いていたり、日本人の自治会長さんがネットワークをつくって情報共有したり外国籍住民との交流の機会をつくったりして、様々なアプローチをとっていました。特に集住している地域は、こういった形で様々なフォローができると思います。

コネクションを様々な場でつくることが重要です。もちろん、乳幼児健診は1つの場ですが、その他にも要となる場でコネクションを持ち、きちんと情報共有することが望ましいと思います。また、同じ言語で会話する方同士で相談することが最も相談しやすいと思いますので、コミュニティを上手く活用していく方向で考えていけると良いと思いました。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 小川次長】

乳幼児健診時のアンケートは多言語に対応しています。また、乳幼児健診未受診者に対しては、地区保健師が個別にアプローチしています。

【山下市長】

乳幼児健診は、国籍を問わず、こどもが健全に育成されているのかという安全確認の意味合いも含めて実施されているため、未受診者に対しては必ず何らかのフォローを実施しています。そういった機会に、相談窓口などがあるということは当然伝えていますが、引き続きしっかり取り組んでいきたいと思います。

【伊藤座長】

先日、保育所に行ったときに、外窓にカスハラのパスターが貼られていました。保護者の方の話が長かったり、クレーマーとまでは言いませんけれども、お子さんの状況を詳しく知りたくて根掘り葉掘り聞かれて、時間がかかったりすることがあり、園長先生も保育士を守りたいという思いでパスターを貼ったと思います。

ただ、どうしても利用者と提供者の構造で考えますと、保育の場合は、お互いに傷つけてしまうのではないかと思います。保護者と保育所が一緒に子育てしているという枠組みで捉えていけないといけないと思います。一方で、保育士の確保が全国的に非常に難しい中で、先生方が働いておられ、そういう状況があるということをお伝えしておきます。

【山下市長】

カスハラのパスターについては、札幌市さんのものを流用させていただいております。議会でも色々議論がありました。基本的には、今おっしゃられたように、関係性のなかで市民の声を聞きながらコミュニケーションをとっていますが、中には、そういった事例がやはりありまして、注意喚起の意味でパスターが効果を発揮しているということで、小牧市でも導入しています。このことについて、特にご意見等はいただけてない聞いていますが、保育園で外向けに貼っていることについては、それが適切かどうか、確認したいと思います。

・基本目標 3 都市の活力と暮らしの安心の創造

【伊藤座長】

続きまして、基本目標 3 にまいります。ご意見等はございますか。

【安田地方創生アドバイザー】

施策 2 (1) のフレイル予防事業への参加者数について課題があると聞いていますが、もっと普段から気楽に取り組む方法がないか、お伺いします。会場まで足を運ぶだけではなく、何らか

の形でどこからでも参加できる仕組みがあると、参加率が上がると思います。何か、具体的に検討されていることがあれば教えてください。

【田中委員】

社会福祉協議会でサロンの事務局をしておりますので、今のご質問にお答えいたします。現在のサロンの状況を見ていると、やはりその近隣地区の方が中心に参加されています。ただ、どの地区の方がどのサロンに参加いただいても構いませんし、なるべく壁をなくそうと、担い手の方々は努力されています。とはいえ、近いところに来られるのが現状です。

現在、80 のサロンがありますが、デジタル化については連絡をスマホで取るようになってきていますし、体操動画などの参加しやすいものを、事務局から情報提供しています。

【安田地方創生アドバイザー】

愛知県のあいちデジタルヘルスコンソーシアムで、愛知県とソフトバンク株式会社が連携してフレイル予防のアプリ開発に取り組んでおり、いろいろな自治体に参加して動いていますので、また情報提供できたらと思います。

【岩瀬委員】

施策 1 の指標に、「名鉄小牧駅の 1 日平均乗降者数」や「公共交通機関の 1 日平均利用者数」があり、目標値に達していないということですが、名鉄の駅の全線においても数字が落ちており、コロナ禍が過ぎて元通りとはなっていません。リモート体制がそのまま続いていて、遠隔地で仕事や勉強をすることが定着している可能性があり、良く回復しているところでもコロナ禍以前の 9 割程度です。それを考えますと、この目標値の達成は相当難しいと思います。社会が変わり、生き方が変わり、学び方も変わりましたので、これらの指標について未達成と評価するのは厳しすぎると思っています。

ただ、名鉄小牧線については、他の路線と比べて、比較的順調に数が伸びていますので、特別憂慮すべき問題ではないと考えています。

【山下市長】

令和 2 年度はコロナ禍の最中ですので、ここで大きく数字が落ちたのだらうと思います。

私の記憶では、名鉄小牧線が平安通駅と接続してから、継続して乗客数が伸びていたと思います。おそらく、小牧駅の 1 日の乗降者数も同じように伸びていると思っています。ただ、コロナ禍が終わっても、今お話いただいたように、数字が回復しないのが、小牧市だけでなく、全国的な傾向であり、目標値を達成できなかったのも致し方ないというご発言ですね。

【岩瀬委員】

そうです。鉄道自体が、コロナ禍以前に比べて 9 割戻れば合格と言われています。それぞれ路線の状況もありますが、生活形態が変わり、それ以上の回復を求めるのは難しいだろうということで捉えています。

・基本目標 4 訪れたくなる、住みたくなる小牧の魅力の発信と創造

【伊藤座長】

続きまして、基本目標 4 にまいります。

非常に順調にきていますが、コロナ禍の影響もあり、施策 2 (2) の「主要なイベント及び地域資源への年間来訪者数（交流人口）」については、基準値よりは改善しているということです

ね。このあたりが次の話題にも繋がっていくと思いますが、やはり生活様式が変わってしまったため、全体的にイベントは対面からオンラインイベントへシフトしている一方で、ローカルなものを求めて訪ねる面もあるかと思っています。この辺は慎重に数値を見ていかなければならないと、個人的には思っております。

【岩瀬委員】

図書館の来訪者数が目標値より大きく伸びているのは、想定したよりもかなり利用者が多いという理解でよろしいですか。

【山下市長】

その通りです。建設する前に設定した目標値ですから、若干控え目に設定していますが、想定以上に人気をいただいている状況です。土日は学生が席を取るために朝から並ぶこともあります。座席数は以前の図書館の約5倍用意したのですが、想定以上の人気となっています。

(2) (仮称) 小牧市デジタル田園都市構想の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

事務局より、資料1及び3に基づき、説明。

○質疑・意見の発言内容

- ・基本目標1 仕事をつくり、働く力を育むまち
- ・基本目標2 人の流れ、にぎわいを生み出すまち

【伊藤座長】

それでは、続きまして議題(2)(仮称)小牧市デジタル田園都市構想の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略(案)についてです。基本目標1についてはいかがでしょうか。

【西村地方創生アドバイザー】

基本目標1のみに限らないとは思いますが、企業版ふるさと納税について質問があります。小牧市のホームページを見ると、現在いろいろな企業が寄附をされているのがわかります。令和7年は小牧市制70周年の年ということも踏まえると、今後どのように展開していく予定なのか、近隣自治体と比較したり、事業をどのように評価されたりするのか教えてください。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 駒瀬次長】

企業版ふるさと納税は国の制度になりますが、市としても第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定時に地域再生計画の国の認定を受け、企業版ふるさと納税の受入れを行ってまいりました。

ただ、実際には寄附件数が伸び悩んでいたため、今年度から、庁内各部より企業へ、積極的な制度の紹介を実施し、寄附件数が伸びてきております。また、外部委託を開始し、事業者の知見を活かした寄附募集を実施しています。この委託は第3回定例会で補正予算を組んだものであり、いよいよ本格的に動き出したところでございます。

1回に千万円単位で寄附を受ける自治体もありますが、実際にはそこまでの規模には至らず、百万円を超える寄附から数十万円の寄附まで、数件ご協力いただいている状況です。

【山下市長】

企業版ふるさと納税制度は以前からありましたが、今年度かなり力を入れて推進しています。令和7年は市制70周年ですが、なかなか市全体の予算が厳しいものですから、何とか財源を

得る手立ての一環として、積極的に企業版ふるさと納税をご紹介しよう、進めていこうとなりました。

最大実質1割負担で寄附が可能です、制度をご存知ない場合もありますから、社会貢献の一環としても是非とご紹介している状況です。

ただし、この制度は本社が市外にある企業に限定されます。私はこれが大きな課題だと考えています。小牧市内に本社がある企業の寄附にはこの制度が適用されません。都市部から地方への財源移転というねらいではありますが、企業版ふるさと納税だけでなく一般のふるさと納税制度においても、この点は問題があると考えています。

とはいえ、制度がある以上、活用しない手はないですから、一般のふるさと納税については赤字にならないよう頑張っていますし、企業版ふるさと納税についても、今後のために今年度から力を入れて、一定の成果が上がりつつある段階です。

・基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまち

【岩瀬委員】

「3.3.3.具体的な施策とKPI」の⑥の指標として「産後ケア事業の利用者数（延べ日数）」とありますが、犬山駅前のホテルで産後ケアを令和6年12月に始めることとなりました。聞くところによりますと、日本は世界有数の、安心して子どもを生むことができる国であることは間違いないのですが、産後うつで自殺をされる方が世界でも上位に入る国だそうです。これは何としてもケアしなくてはならないと考えています。

核家族化していつていますし、夫婦ともに働く方も多く、ケアをしてくれる人や頼れる人が周りにいないということで、自殺される方が多いというのはあまりに嘆かわしいことですので、何とかしなくては行けないと、宿泊施設として取り組むことにしました。

小牧市においても多かれ少なかれ同じ状況はあるかと思いますので、ここに記載のある産後ケアなどは重要なことだと感じております。

【伊藤座長】

昨今、切れ目のないケアということで、子どもまんなか社会も打ち出されましたので、妊娠、出産、それこそ独り立ちするまでを考えなくてはならない中で、ここに産後ケアだけ記載があることは気になっていました。指標は産後ケアですが、ライフステージに応じて必要な支援に繋がるように、チャンネルを増やしていただければと思います。議題（1）でも話題になりましたが、子育て相談などの支援について、こういうものがあるよという発信を、アプリやチャットもありますし、様々なチャンネルをつくっておく必要があると思います。

個人的には、ライフスタイルが転換するポイントごとに指標があると良いと思います。例えば、小学校進学時に満足度を測るなどが考えられますね。

続く⑦の指標も「待機児童数」であり、確かに受け皿の整備も重要ですが、結局のところ0人で推移すると思います。やはり、保育士の先生方が、充実してやりがいを持って働くことができるということが、子どもたちの安心・安全な成長にも繋がりますので、こういった側面も考えていただければと思っています。

・基本目標4 魅力にあふれるまち

【鈴木委員】

「3.4.3.具体的な施策とKPI」の②ですが、東部振興構想について、桃花台ニュータウンは今が一番良い時期だと思っています。住宅ローンを払い終わって、子どもは独立して、時間も資産も、ある程度ゆとりがある状況だと思っています。旅行やボランティアをしている方のお話をたくさ

んお聞きするので、一番良い時期だと思います。ただし、同じ年代の方が多いですから、あと数年も経過すると、一気に高齢化が進行し、相続や空き家などの問題が深刻化するだろうと予想しています。

この東部振興構想は、現在の住民で前向きに頑張ろうという内容になっていますが、数年先のことを思うと、やはり、新しい人を呼び込むような視点や取組も必要だと感じました。

【岩瀬委員】

同じく「3.4.3. 具体的な施策と KPI」の①ですが、小牧市中心市街地グランドデザインに関連して、小牧駅周辺に宿泊するビジネス客、観光客の方々から、小牧駅前には夜に出歩くところが少ないという声をいただいています。小牧市は、交通の拠点としては非常に恵まれています、いざ泊まって出歩こうと思うと夜は真っ暗で、どこかお店はありませんかと尋ねられることがあります。

まち全体でにぎわいをつくっていく、夜も楽しめるようなまちづくりが必要ではないかと感じていますので、一考いただければと思います。

【伊藤座長】

にぎわいに関連して、基本目標 2 の交流人口について伺います。市を訪れる方、宿泊される方、いろいろいらっしゃると思いますが、どのような人にどのような関わりを持ってほしいと考えているのかお聞きしたいと思います。それもあって、事前質問 17 番のとおり、耕作放棄地に市外の方が携わってもらえないのかと考えたのですが、いかがでしょうか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 伊藤次長】

まず、交流人口については、最終的には小牧市に住んでいただきたいという思いではございますが、まずは何らかの形で小牧市を知って来ていただいて、こんなところだったら住んでも良いなと感じていただければというねらいのもと、交流人口と捉えて KPI に設定しました。

農業に関しましては、制度上の制限もあり、市外の方に携わっていただける制度は現在のところございません。ですが、まだまだ先の予定にはなりますが、東部地区で農業公園の整備に向けて取り組んでいますので、こちらに今いただいたようなご意見も生かしていければと考えています。

【山下市長】

様々なご意見をありがとうございます。

東部振興構想に関しましては、先ほど、鈴木委員からお話しいただいたとおりですが、行政だけでなく関係する方々と一緒に活動を進めていこうと、活発に取り組んでいます。しかし、東部地区はこれから一気に高齢化や空き家の問題が出てくると予測できますので、大幅な人口減を避けるために新たな入居者獲得が必要です。

東部地区の魅力には非常にポテンシャルがあると感じています。東部地区は名古屋近郊ながら自然もありますし、桃花台ニュータウンは都市インフラが整っています。公園や遊歩道も整備されて、安全に子育てができるインフラとなっています。まだまだニュータウンには一定のニーズがあるということで、東部まちづくりプラットフォームなどの住民の方々と一緒になって魅力を発信しながら、新たな住民を呼び込むような好循環を生み出せないか模索しています。東部まちづくりプラットフォームでは、学生の方も参加して、いろいろな情報発信やイベントを進めていただいていますので、この方向性でさらに進めていきたいと考えています。

最終的には、空き家を生まずに住んでいただきたい。これは定住促進ということで、市全体で

取り組んでいきたいと考えています。

それから、岩瀬委員からお話のあった、小牧駅前についてですが、夜が寂しいのではないかと
いうのは長年の懸案事項です。いかんせん、自治体が自ら居酒屋を設置するのは難しいため、民
間事業者の方々に投資いただくためにも、環境改善ということで、図書館の整備をはじめ、少し
ずつまちを変えていき、そこに波及効果が生まれることを期待しております。

現在、名古屋鉄道さんとは小牧駅前の再整備に向けて協議しています。やはり、小牧駅前を訪
れた皆さんが口を揃えておっしゃるのが、夜に食事をするところがないよね、泊まった方がちょ
っと出歩くところがないよねというご意見です。小牧駅前の活性化のあり方の議論は、一定程度
進んで後半に差し掛かってきていますが、さらに名古屋鉄道さんや名鉄ホテルさん含めて、相談
しながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【名和委員】

中心市街地グランドデザインについては、私も関わってまいりました。小牧山から小牧駅前
にかけてのシンボルロードや、旧図書館跡地を、空き家対策をしながら活性化していきたいとい
う方針でしたが、その後、どのように具体的に進んでいるのか伺いたいです。

また、話題が変わりますが、中学生の職業人体験ということで、私どもの会社は小牧市の中心
部にあるのですが、桃陵中学校・小牧中学校・岩崎中学校の合計3校から依頼をいただしてい
ます。どうして、そんな遠いところから私どもの会社を選ばれたのですかと伺ったところ、事業所
が減っている、加えて、協力いただける事業所も減っているからと聞きました。少々不安も感じ
ましたので、これについても伺いたいと思います。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 舟橋次長】

中心市街地グランドデザインについてですが、旧図書館跡地については、民間活力を使った公
園整備により、新たにカフェを設置するという一方で、令和7年6月に向けて整備を進めてい
るところであります。また、昨年度に継続して「こまなか meet」ということで、中心市街地に
にぎわいを創出しようということで、様々なイベントなどを実施しています。引き続き、こうい
った取組を進めていながら、中心市街地グランドデザインの実現に向けて推進していきたい
と考えています。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 矢本次長】

職業人体験についてですが、受入事業所が減っているということに関しては承知していない
ため、追って確認させていただきます。ただし、東部地区についてはもともと事業所が少ない地
区のため、中心市街地の企業に依頼する傾向がございます。

【名和委員】

今年の夏に、小牧駅前まちづくり研究会主催で、小牧駅でビアガーデンが開催され、非常に反
響があったと感じています。こういったにぎわいの創出を、中心市街地で何回もどんどん広げて
いくと良いと思いました。

以前、高知県を訪れた際に、繁華街やアーケードの中にこたつを敷いて食事をするイベントを
見ました。本当にとってもにぎわっていました。こういったように様々な方法で、道路を開放する
などして、にぎわいをもっともっと生んでいけたら良いと思いました。

職業人体験については、参加する中学生たちが少々気の毒だと思いました。ご依頼いただけれ
ば喜んでお受けするのですが、中学生たちに行き帰りが大変ではと尋ねると、やはり大変ですと
のことでした。中学生たちに幅広い職場体験をということであれば、学校単位で調整するのでは

なく、市から広く事業所へ協力依頼するだとか、バックアップがあってもいいと思いました。

・基本目標 5 暮らしの安心を支えるまち

【田中委員】

「3.5.3. 具体的な施策と KPI」の⑧と⑨に支え合いのことが記載されています。小牧市では 10 年ほど前に市長の発声で、高齢者の方の生活を守っていく、10 年の戦略を進めておられたと思います。その中で、医療と介護の一体的・専門的なサービスと、支え合いについては、重点事業という形で進められてきました。先程の、議題（1）の効果検証にもありましたが、「福祉分野の活動をしている地域協議会の数」が 13 組織中 9 組織あるということで、一定の成果があったものと思います。

ただ、社会福祉協議会に寄せられる相談の中で、独居高齢者が多くなってきているとか、ボランティアが高齢化して担い手がいないといった相談が非常に多くなってきています。身寄りのない方にどう対応していくか、権利をどのように守っていくかなど、複雑な問題が出てきています。これからもこの支え合いが住民まかせでいいのか、心配です。記載にあるような施策の中で、今後どのように住民を支えていくかという仕組みも考えていただきながら、これからの支え合いをつくっていただきたいです。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 小川次長】

ボランティアの担い手不足については課題であると認識しています。これまで、ボランティアは無償という考え方がありましたが、これからは従来の考え方も残しつつ、有償や仕事などの形で、幅広く高齢の方や地域の活動へ関わる選択肢を用意できたらと思っています。選択の幅が広がれば、活動も広がっていくのではと考えています。

地域の困り事を地域で解決していく形が理想であると考えていますが、そこまでに至るのは非常に難しいものです。実現に近づくよう、行政が地域に寄り添いながら支えていくことが、現段階には重要であると思っています。そして、ゆくゆくは自立していくことが一番の理想形だと感じています。

【田中委員】

選択の幅を広げるということに関連して、「こまき支え合いいきいきポイント」を、ボランティアの皆さんが上手く活用されています。こういった取組を、対象を広げるなどして、今後も展開していただくことが有効なのではと思いました。

【山下市長】

この問題は本当に悩ましいです。高齢化していきますが、高齢者の数が増えても、支えが必要な高齢者ばかりではなくて、元気な高齢者も増えてくると考えています。その中で、支えたり支えられたりということを上手く醸成できないかと考えて、市では「活力ある高齢社会（小牧モデル）」の構築について議論してきました。

高齢者を支えるというと、従来、現役世代と高齢者の構図の議論がなされてきましたが、税負担や社会保障などの制度で支えるには限界があると考えています。やはり、介護保険だとかの制度の狭間に、ボランティアなどの地域で支え合う仕組みを住民主体でつくろうという発想です。制度的な有償サービスを増やして、介護保険料や税金を投入しながら対応していくことは、財源や人手など、今後さらに厳しくなっていくから、地域で支え合う部分を増やしていく努力を続けていくしかないと考えています。このため、⑧の KPI になっていますが、「お互いさまサポーター登録者数」も、伸び悩んではいますが、少しずつ数を伸ばしていると感じています。

ただし、十数年前ぐらいの感覚からすると、高齢者の数が増えているのに、担い手の数は伸び悩んでいると感じています。いろいろなボランティアの担い手も、区長のなり手もないと聞きます。景気の伸びもなく、働く年代も上がってきていますから、なかなかボランティアに、とはならないのかなと推測しています。この辺りはもう少し分析して、十数年前に描いた戦略を修正するなど、現在の状況にあわせていく必要があると思っています。

いかに広く浅く、毎日ではなくとも1週間に3～4時間でもいいので、支える側に回っていただける市民の方を増やしていくのか考えていきたいです。参加のハードルを下げて、テンポラリーに、その都度募集をして参加できるようなボランティアのマッチングの仕組みなどを、ICTやDXを活用しながら議論していきたいと考えています。

3. 報告

令和5年度地方創生臨時交付金の効果検証について

事務局より、報告1に基づき、説明。

○質疑・意見の発言内容

【名和委員】

こまきプレミアム商品券ですが、非常に好評で、市民の皆様の間にも広く浸透していると感じています。購入者数が増えてきて、満額購入できないこともある状況です。それだけ、多くの方のリクエストがあるものと考えていますが、今後の発行助成事業の予定はいかがでしょうか。

【山下市長】

好評を博しているということは承知しておりますが、これはコロナ禍からの生活支援という理由で、プレミアム率が10%から20%に引き上げられ、これが継続していることも大きく影響しているかと思います。しかし、今般はかつてないほど非常に財政状況が厳しいものですから、努力は重ねてまいりたいと考えておりますが、次年度の予定はまだ立っていない状況です。

【名和委員】

やはり、商業の活性化やまちの活性化に繋がりますので、商業者の活力を上げるためにも、是非、継続をお願いしたいと思います。

4. その他

西村地方創生アドバイザーより、下記の事項について情報提供。

- ・ナッジ理論
- ・大阪・関西万博 共創チャレンジ

安田地方創生アドバイザーより、下記の事項について情報提供。

- ・人流データ、ビッグデータ分析
- ・STATION Ai
- ・アジア競技大会

【伊藤座長】

それでは、これを持ちまして本日の議事は全て終了となります。円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございます。